

天満橋 てんまばし ● Temma-bashi
(大川)

大川(旧淀川)に架かる天満橋は、難波橋・天神橋とともに浪華三大橋と呼ばれ、大阪の町にとって昔から今日に至るまで重要な橋の一つになっている。

この橋は、大坂城下建築に伴って架けられたと伝わるが、江戸時代には公儀橋に指定され幕府に直轄管理されていた。当時、橋の南側には東西の町奉行所があり、北側には役所の倉庫や町与力の屋敷、谷町筋から東側にはさまざまな役所があったため、役人の通行や役所間の連絡等に利用される、官の性格が強い橋だった。明治18(1885)年の大洪水で流失したが、その後、鉄橋に架け換えられた。

現在の橋は、昭和10(1935)年に重厚なゲルバー式綱桁橋に架け換えられたもので、「のびのびとした鳥が羽を広げたような形」と当時の担当者が表現したように、バランスの良い桁橋になっている。平成元(1989)年に旧橋部が改装された。今の橋は当時の役割とは大きく異なり、天満橋の頭上を高架道路が走り、造幣局の桜の通り抜けや桜の開花時期、天神祭の花火では、橋の上が絶景のビューポイントとして大勢の人で賑わう。

